「別府史談」の創刊にあたって

今まさに地方の時代と言われています。政治も経済も地方との深い係わりをもって進展しているといっても過言ではないでしょう。だからこそ、地方の活性化が期待され、いろいろな手だてが構じられつつあるものと考えます。全国を風びしている。「一村一品運動」もこの一端であろうかと思います。

地方の活性化の根幹は、それぞれの住民が、郷土の成り立ちを尋ね、その風土をこよなく愛し、地方の個性豊かな特色ある発展をこい願って努力する気持ちに他ならないと思います。

最近、地方史から日本史を見直をそうという動きがとみに盛んとなりました。多くの人々が地方史に取り組み、その研究は、通史のより確かな裏づけや、あるいは新しい史実の発見など多大の成果をあげているところであります。郷土の歴史の研究に携わる人々のなかには、純粋に学問として史実を追究しようとする人、先人の生活やその遺跡にふれ歴史的ロマンティシズムにひたろうとする人、先祖の事績にあやかり今後の生活の糧にしようとする人、観光資源の一つとして郷土の発展に役立てようと思う人など、さまざまであると思われます。別府史談会は、そうした歴史を愛する人々の集りであります。

別府史談会の機関誌「別府史談」の創刊にあたり、たくさんの会員の方々より原稿をいただきました。たいへん有難く感謝致しております。今後とも別府市の歴史を地道に掘り起こし、郷土の発展に少しでも寄与できるよう努力して行こうではありませんか。

昭和六十二年十月

別府史談会々長　豊田文一